

a 学校教育目標	夢を持ち果敢に挑戦し、次代を担う生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立つ志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 知・徳・体のバランスのとれた力を身に付け、郷土から愛される生徒の通う学校
----------	-----------------------	----------------------	--

評価計画				自己評価					改善方策		学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	基礎学力の定着と個別最適な学びの充実	○思考力・判断力・表現力等の育成をめざした授業改善 ○家庭学習の習慣化と授業への活用	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※授業がよくわかる/家庭学習の項目「1,3,4」	90%	90.1% 89.4% 65.3%	89.3% 86.9% 65.9%	89.7%	B	・授業がよくわかるに関しては、昨年度2月からの数値はほぼ同じである。ほぼ目標値ではあるが、昨年度10月より約4ポイント下回っている。 ・家庭学習については、提出率が2.5ポイント下回っている。また、復習等の家庭学習の充実には、目標値を大幅に下回っている。	・管理職からの指導や1人1授業研究での取組を基に、日々の授業改善を行っている。 ・家庭学習の取組について、研究部を中心に具体的な取組等を協議していき、方向性を考えていく。	○			・復習をしていると回答した生徒の割合が60%前後であり、何かきっかけがあればもっとするようになるのではないかとと思う。そしてその習慣化が1つのポイントだと考える。 ・コロナの影響で、精神的な不安から学習意欲の低下につながっていると考える。根気強く指導をお願いしたい。
			学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※ICT機器の項目「11」	90%	93.8% 94.9%	105.4%	A	・目標値の90%を超える94.9%の生徒が肯定的な回答をしている。	・今後も授業でICTを活用する取組を継続していく。また、授業だけでなく、家庭学習や課題にクロムブックを活用するよう活動を提案する。	○				
		○学習分析事業等による定着状況の把握と改善に向けた取組 ○総合的な学習の時間での生徒の主体的な学習の場の設定	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※主体的な場面の項目「6,7」	70%	85.8% 63.1%	85.7% 71.8%	112.5%	A	・どの項目においても目標値を越え、おおむね高い数値であった。特に、「ピア学習やグループ学習では、自分の意見や考えをまとめて、周りの人にわかりやすく説明したり発表したりしています」というアンケートに肯定的に答えた生徒の割合は85.7%であった。	・今後も研究部を中心に、学力向上や主体性の向上に向けて取組を進めていく。授業改善と探究的な学習の充実については、単元の構成や、授業展開について研修を重ねていく。	○			
豊かな心・健やかな体	人に愛される生徒の育成	○生徒指導・教育相談活動の推進	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※自らあいさつ「5」 不登校の人数	80%	74.7%	75.2%	94.0%	B	・あいさつについての肯定的評価は0.5%上回っている。 ・不登校生徒数は10月より5名増加している。	・生徒会活動として取り組んでいる、部活動ごとのあいさつ運動を、今後も生徒会と連携しながら実施していく。 ・不登校に関して、各担任の取組により、欠席日数が30日以上の子も、昨年度より改善されているケースもある。教育相談委員会等でSC,SSWと連携をとりながら、組織的な対応を継続して行っていく。	○			・廊下ですれ違ったときの生徒の挨拶、教室に掲示してある写真、授業の様子を見させていただき、生徒どうしの協調性や温かみを感じることができた。引き続き、工夫しながら取組をしてもらいたい。
			学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※主体的な場面の項目「12,13」	90%	79.2% 89.1%	79.8% 90.5%	94.6%	B	・道徳の授業の必要性や生きていく上で大切なことを学んでいるという意識は90%を上回っている。 ・道徳の時間が好きだと感じる生徒は10月より増加しているが、79.8%に留まっている。	・授業改善に関わる校内全体での研修の機会を設定する。 ・経験年数の少ない教員の参考となるよう、授業参観の機会を持ち、授業イメージを確立させる。	○			
		○生徒会活動の充実	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※主体的な場面の項目「7,8」	90%	91.4% 91.4%	92.6% 93.9%	103.6%	A	・「委員会、係の仕事等に責任を持って取り組み達成感を感じている」「学校行事等に一生懸命取り組み達成感を感じている」とともに、目標値90%を超える生徒が肯定的な回答をしている。 ・「委員会、係活動」について、今年度10月と比較して約1ポイント上昇し、「学校行事」についても肯定的な回答をする生徒が約2ポイント上昇している。	・生徒会役員・委員長と担当教員が連携を密に取ることで、より充実した活動を目指す。また、前年度の反省点を踏まえ、活動内容の見直しを進めていく。 ・リーダーを中心に、生徒主体で行事を進められたことが、一体感や達成感につながったと考えられる。生徒が自信を持って活動に取り組めるよう、教員の事前準備・サポートを充実させていく。	○			・不登校生徒数が増加していることが気にはなるが、コロナの影響もあると考える。生徒に寄り添い、粘り強く取り組んでもらいたい。
働き方改革の推進	生徒と向き合う時間の確保	○業務のスクラップ&ビルドによる業務改善 ○週に1日5時間授業の設定と定時退校日の設定	学校評価アンケートの肯定的な回答率 ※教職員の業務改善の項目「8」	90%	80.0%	87.6%	97.3%	B	・「少しでも早く退校できるように業務改善に努めている」というアンケートに、肯定的に答えた教職員の割合は87.6%であった。 ・月曜5時間の取組は授業時数確保のため2学期中旬から休止したが、定時退校日については、全職員が意識して早期退校に取り組んでいる。	・準衛生委員会で、業務のスクラップや見直すことについて意見を出し合い、年度途中であっても、出来ることから改善していく。 ・定時退校日に早く退校できるように、日頃から意識して業務の計画を立てる。	○			・コロナに対する対応や教育委員会等への報告などにより、先生方への負担が増えているとは思いますが、その中でもスピード感ある改善策や自分をコントロールすることに取り組んでもらいたい。
			○学校組織のスリム化と業務スケジュール管理の徹底	在校時間60時間以内の者の割合	前年度比増	68.1%	68.7%	120.1%	A	・勤務時間外の在校時間が60時間以内である者の割合は、昨年度が57.2%、今年度は9月間でのべ243人中167人、68.7%であった。 ・6月は教育実習や体育大会、修学旅行、定期試験作成など、多くの業務が重なったため長時間勤務となる状況が見られたが、他の月は業務の平準化を進めることができた。	・学校行事等、今年度取り組んだことについては、行事終了後すぐに要項等の修正を行い、次年度のフォルダに保存しておくことで、先を見通した業務改善としていく。	○		

[j]:自己評価 評価]

A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

[l]:学校関係者評価 評価]

イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。